OKA
立教180年（H29）
【10･11月合併号】

ようぼくの心と心をつなぐ
News Letter

青年会長様のご臨席をいただき
青年会「決起総会」を開催

創立百周年へ向け「心を動かせ 世界を拓け」

「今日の一歩こそが、皆さんの今後の人生をより素晴らしいものに変えていく、大きな一歩となる」と決起をお促し下された中山大亮・青年会長様。このお言葉を胸に、青年会岡分会（上田耕平委員長）は、青年会創立100周年に向けて新たな一歩を踏み出しました。

今期の青年会本部の基本方針は「感謝と挑戦」。そして、「心を動かせ　世界を拓け」をスローガンに掲げられています。「決起総会」で青年会長様にお誓いした、「（青年会創立百周年に向けた歩みを）私たちだけの歩みにとどめるのではなく、いま抱いているこの熱意を次の世代へつなげていけるように、精一杯つとめさせていただきます」との決意は、これまであらきとうりようの精神を連綿と伝えつなげて下さった先輩方への感謝と、次代をより一層輝く青年会にしたいという希望と挑戦の表れ。それを実現するには、私たち青年会員一人ひとりが、自分に矢印を向けて心を動かし、あらゆる世界を切り拓いていく気概で歩みを進めなければなりません。

創立100周年という、大きな節目だからこそできることがあります。青年会長様の思いにお応えできるよう、100周年までの一年を、悔いのない最高の一年にしましょう。

「天理教青年会創立百周年決起　岡分会総会」に於ける

青年会長様お言葉

（立教百八十年九月二十四日　岡大教会神殿）

青年会長　中山大亮

皆さん、こんにちは。今月に入ってから、幸せな気持ちしか湧き起ってこない、幸せな言葉しか口から出てこない。何を言われても腹が立たない、結婚24日目、新婚ほやほやの青年会長・中山大亮です。どうぞよろしくお願いします。

あらためまして、本日は、「青年会創立百周年決起　天理教青年会岡分会総会」を開催されまして、誠におめでとうございます。また、会員の皆さん方には、日頃はそれぞれの立場で青年会活動の上にご丹精くださいまして、誠にありがとうございます。

さて、天理教青年会は来年創立百周年を迎えます。青年会では、今回の百周年を「白紙に戻り、一より始める旬」ととらえ、創立の精神に立ち返り、これから20年、30年先の将来を見据えた活動にしていきたいと思っております。

青年会は、大正7年10月25日、当時の青年たちの「この道をもっと世界へ伝え広めたい」、「この道をもっと深く求め、成人したい」という、抑えるに抑えきれない自発的な気持ちが一つに結集して誕生しました。つまり、今回「白紙に戻る」というのは、当時の先人たちのようにまずは会員一人ひとりが信仰の喜びを持ち、毎日をとにかく喜んで通り、自然と「求めたい」、「伝えたい」、「成人したい」と思えるような人になることであります。そして、この岡分会という場が、岡につながる全青年会員から「あそこやったらまた行きたいな」と思ってもらえるような、そんな魅力ある場所になっていってほしいのであります。分会の魅力は、そこにいる人で決まります。これから誰もが行きたくなるような、そんな青年会になっていくために、まずはここにいる皆さん方が自分自身の心を磨いていく、また変えていくということが大切であります。これを踏まえた上で、今回の活動についてお話をしたいと思います。

今回は「心を動かせ　世界を拓け」をスローガンに掲げ、

会員一人ひとりが布教と求道に真正面から向き合っていきます。まず「心を動かせ」の部分。つまり、求道に関しましては、会員一人ひとりが日々の生活の中で「陽気ぐらしの実践」をしていきます。この「陽気ぐらしの実践」とは、人に喜んでもらえるような言葉がけや行いをするということであります。中でも、「親孝行・夫婦仲良く」をキーワードとして、親子や夫婦の在り方に焦点を当てて取り組んでいきます。

次に、「世界を拓け」の部分。布教に関しましては、今までの数や勢いに任せた動きで良しとするのではなく、しっかりとおたすけにつなげていけるように、「胸から胸へのにをいがけ」をしていきます。具体的には「一人の会員が一人の初参拝者を」を合言葉に、教会に未信者の方をお連れして、おたすけをしていこうという動きを進めていきます。初参拝の動きにつきましては、今年の４月より「青年会初参拝専用アプリ」というものを配信いたしましたので、ぜひ皆さん方にもインストールしていただきたいと思います。

すなわち、まずは自分の心に矢印を向けて、「親孝行・夫婦仲良く」を意識しながら自分の心を変えていく。そして、そこで感じた喜びを、にをいがけに歩く中で出会った人や、身近にいる未信者の方々に伝え、その方を教会にお連れし、お話を取り次ぎ、おたすけを重ねていく。これが今回の〝百周年活動〟の肝心な部分であります。

私は、今回の活動は一言で言えば、「人生が変わる活動」であると思っております。これから私がお話をすることを皆さん方にも実行していただければ、必ず皆さんの人生が変わると思います。今までとは比べ物にならないくらい、毎日が楽しくなっていくはずであります。私がそこまで言い切れるのは、私自身もこの〝百周年活動〟でたすけられた一人だからであります。

私は、中山家に養子に入って早くも４年半が経ちますが、初めの方はこの立場であることをなかなか喜べずにいました。養子に入ったその日から、周りの皆さんから敬語で話されるようになり、名前は呼ばれたこともない様付けであります。もちろん皆さん年上で、普段おぢばにいる時も、またこうして教会に行った時にも、いつでもどこでも気を遣っていただいて、またこちらも気を遣う。たった1カ月前まで大阪のアパートで独り暮らしをしていたのが夢だったのかと思うくらい、私の生活は一変しました。

時が経っていくにつれて、日々の生活に慣れてはきましたが、心から「毎日が楽しい」とか「この立場がありがたい」とか、そういうふうには思えない自分がいました。「自分より相応しい人がたくさんいるのに、なんで自分なんや。できることなら、誰かに代わってもらいたいな」と、そんな気持ちが心の奥底にずっとくっついて取れなかったのであります。

そんな中、昨年の4月に青年会本部よりこの〝百周年活動〟を打ち出しました。打ち出したからには、まず自分がやらなあかんと思いまして、私自身もまず「陽気ぐらしの実践」をし始めました。自分の心に矢印を向けて、普段の自分の言葉や態度を見つめ直し、その一つひとつを徹底的に、人に喜んでもらえるものに変えていきました。しっかりと相手を元気にさせるような明るい挨拶や、周囲の方々への「ありがとうございます」、「お疲れさまです」などの声掛け。また、誰に対してもこちらから積極的に握手をしたり、誕生日にプレゼントや手紙を送ったり、何かの御礼を「ＬＩＮＥ」のボイスメッセージで送信したり。とにかく、思いつくことをたくさん実践していきました。

「陽気ぐらしの実践」のアンテナを常に立てるようにしておりますと、自分にできる人を喜ばす行いが、面白いほどに見つかっていきました。そして、私はそのたびにスマホにメモをし始めたのであります。例えば、「修理巡教の際にできる陽気ぐらしの実践」であったりとか、「後継者講習会中にできる陽気ぐらしの実践」。そういった風にタイトルを付けて、その場面々々でできる行いを箇条書きにして、それを常に見返すように意識をしました。そのおかげで、その一つひとつの項目を、だんだんと意識しなくても実践できるようになっていきました。このようにして、「陽気ぐらしの実践」をしていけばしていくほど、自分でも驚くくらい皆さんが喜んでくださいました。私は〝百周年活動〟を通して、喜びというのは与えれば与えるほど、それが何倍にもなって返ってくるのだなということを学び、いつの間にか、以前よりも格段に毎日を喜んで通れるようになってきたのであります。そして、同時に「この立場がしんどいな」という思いから、だんだんと「この立場ってありがたいな」という思いに変わっていったのであります。

私は、この〝百周年活動〟の陽気ぐらしの実践によってたすけていただきました。本当に心を、また人生を変えていただいたのであります。もしこのタイミングで百周年の

旬が来ていなかったら、今頃どこかへ逃げ出し、ここには立っていなかったかもしれません。いま私はこの立場であることを、ありがたいなと心から喜んで通ることができております。

さて、陽気ぐらしの実践をし始めてから、私は布教に対する気持ちも少し変わってきました。人を喜ばすことをすればするほど毎日が楽しくなり、この溢れんばかりの信仰の喜びを誰かに伝えたくなってきたのであります。いま思えば〝百周年活動〟し始めるまでの私は、にをいがけ先で陽気ぐらしの教えを説いているのに、その自分自身がまったく陽気ぐらしを出来ていませんでした。陽気ぐらししていない人に「陽気ぐらしをしましょう」と言われても、何の説得力もありません。伝わるわけがありませんでした。おそらく当時の私は、布教をやりたくてやっていたのではなくて、しなければならないからやっていたという感じだったと思います。大切なことは、まず陽気ぐらしの実践によって、自分自身が陽気な人間になるということであります。

にをいがけとは、決して戸別訪問や神名流し、路傍講演、またチラシ配りだけを指すものではありません。常に陽気ぐらしの実践をして、自分の体から〝陽気ぐらしのにをい〟がにじみ出ている、これこそが本当のにをいがけだと思うのであります。この中には、さまざまな立場の方がおられると思いますが、働いている方なら自分の仕事場の中で、また道専務の方なら自分の教会の中で、誰よりも人に喜びを与えられる人になり、誰が見ても「この人輝いているな」と思ってもらえるな、そんな人になっていってほしいと思うのであります。またその上で、お道の教えの素晴らしさを、自分の体験談と共に伝えていっていただきたいと思うのです。そして、それこそが「胸から胸へのにをいがけ」なのであります。「陽気ぐらしの実践」と「胸から胸へのにをいがけ」。つまり、「布教」と「求道」というのは二つ一つであります。決して別々なものではなく、常に連動しているもの、連動していなくてはならないものなのであります。どうかこのことを忘れることの無いよう、活動を進めていっていただきたいと思います。

最後に、ここだけの話をしたいと思います。実は私、この〝百周年活動〟でご守護を頂いたことがもう一つあるのです。それは、結婚のことであります。先ほど申したように、私は昨年の4月より「陽気ぐらしの実践」をし始めました。しかしながらその一方で、一番身近で一番大切な「親孝行・夫婦仲良く」というところからは逃げてしまっていたのであります。「やらなあかん、やらなあかん」と思いつつも、親に対しては勇気が出ずに、実践できないままでいました。

実はちょうどそのころ、結婚の話が水面下で進んでいる時でありまして、私は「どうにか無事に、話が決まってくれ」と祈るような毎日だったのであります。そんな時、親孝行するのにどうしても一歩が踏み出せないということをある方に相談したところ、「その越えれそうで越えられない壁を越えていかないと、本当の意味で自分を変えることはできないよ。それを越えて親孝行することができたら、必ず神様が喜びの姿を見せてくださるよ」と、そう言ってもらっ

たのであります。私はそれを聞いた瞬間、「もしここで親孝行ができなければ、この結婚の話はたぶん無くなってしまうだろうな」と確信しました。この方の一言が大きな追い風となりまして、私はやっとのことで大きな一歩を踏み出すことが出来、昨年の本部の「総会」で言ったように、夜寝る前に両親の所へ行って「今日も一日ありがとうございました。おやすみなさい」という、親孝行の実践が出来たのであります。そしてその数日後、結婚の話が正式に決まったのであります。まさに、歓喜の瞬間でありました。

正直なところ、私はこの立場になった以上「私と結婚したいと思う人なんていないに決まっているし、好きな人と結婚するということは絶対無理だろう」と思っていました。そんなことを考えるたびに、「やっぱりこの立場はいやだな」と思うこともしばしばありました。だからこそ、私は本当に心からこの〝百周年活動〟に感謝をしているのであります。これがなかったら、この結婚はあり得なかったと思います。あのとき勇気を振り絞って親孝行の実践が出来たからこそ、神様が結婚という最高のプレゼントを下さったのだと私はいまでも強く信じております。

「陽気ぐらしの実践」をすれば、魂に徳が積まれます。おたすけをすれば、いんねんを切っていただけます。つまり今回の〝百周年活動〟は、自分自身の魂をピカピカに磨き、魂を徳だらけにしていくことが出来る活動なのであります。魂に徳が積まれれば積まれるほど、神様は手をたたいてお喜びくださり、たくさんのうれしいうれしいプレゼントを下さるはずであります。

皆さん、決起の日である今日この日から、「親孝行・夫婦仲良く、陽気ぐらしの実践」に励みましょう。自分を変えられる人は、素直な人であります。今日帰ってからすぐに行動に移せる人こそが、自分自身を変えていける人なのであります。この後のねりあいで、自分は今日、親や奥さんに何が出来るかを考えて、必ず一つ決めて帰ってください。今日の一歩こそが、皆さんの今後の人生をより素晴らしいものに変えていく、大きな大きな一歩となるはずであります。

さて、これからの岡大教会をつくり上げていくのは、ここにいる皆さん方であります。皆さん方がこの〝百周年活動〟を機に自分を変えていくことが出来れば、岡大教会の未来はきっと今よりも、もっともっと明るいものになっていくはずであります。私は今日、これだけたくさんのあらきとうりよう達と出会い、これから一緒になってお道の未来をつくっていけるのかと考えると、とてもワクワクしてきました。ますます、これからのお道が楽しみになってきました。どうかこれから共々に、最高に陽気で楽しいお道をつくり上げていくために、まずはこの〝百周年活動〟を一手一つに、一生懸命務めさせていただきましょう。以上であいさつとさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

（文責　上田耕平）

青年会長様「今日の一歩こそが、皆さんの今後の人生をより素晴らしいものに変えていく」

青年会創立百周年に向け一同が決起

青年会岡分会（上田耕平委員長）は9月24日、中山大亮・青年会長様をお迎えして「青年会創立百周年決起　岡分会総会」を開催。当日は約300人（うち青年会員76人）が参加した。（2～6頁に「青年会長様お言葉」、8～9頁に「グラフ特集」掲載）

今回の「決起総会」に向けては、毎月の委員会のほかに、大教会や詰所に委員が集まって話し合いを進め、大教会長様をはじめ役員先生よりご指導を頂きながら、「青年会の創立百周年に向けた決起にするためにも、参加対象者を青年会に絞り、青年会長様をお迎えさせて頂こう」と決定。動員目標数を「200人」とし、ポスターやチラシ、「LINE」などのSNS（ソーシャルネットワークサービス）を活用して、呼びかけを行ってきた。

当日の式典では、まず青年会長様よりお言葉を頂いた。「今日、この日から『親孝行・夫婦仲良く、陽気ぐらしの実践』に励もう」と述べられた青年会長様は、「今日の一歩こそが、皆さんの今後の人生をより素晴らしいものに変えていく、大きな一歩となる」と決起を促された。その後、大教会長様の祝辞に続いて、会員代表2人が感話。ねりあいの後、青年会長様を芯に「お誓いのおつとめ」を勤めた。

午後の会食では、女子青年（吉田あゆみ委員長）や青年会が余興を披露。また、ものまねタレントの桜井としかずさん（南阿太分教会所属）がサプライズ出演して会場を沸かせ、青年会長様もご一緒にお歌いになるなど、大いに盛り上がった。

「青年会長様のご臨席をいただき、盛大に決起総会をつとめさせていただけましたこと、本当にうれしく感謝の気持ちでいっぱいです。青年会長様のご期待に、精いっぱい応えさせて頂きます」と上田委員長。来年迎える青年会創立百周年に向けて、新たな歩みを進める。

▲式典とねりあいの後、青年会長様を芯に一手一つに「お誓いのおつとめ」を勤めた。

▲青年会創立百周年に向けて、「あらきとうりようとしての歩みを大きく進めさせていただく」との決意を述べる上田委員長。

グラフ特集

総会を写真と共に振り返る

決起青年会岡分会総会

◀受付の様子

◀青年会長様と随行委員のご到着

▲青年会長様よりお言葉を頂戴した

◀大教会長様よりご祝辞をいただいた

▲会員を代表して２名が感話に立った

◀岡分会委員長・上田耕平が青年会長様に決意を申し上げた

◀一同であらきとうりよう指針を唱和。天理教青年会々歌を斉唱した

誓いのおつとめ

▲青年会長様を芯に、来年の「青年会創立百周年」に向けて誓いのおつとめが勤められた

ねりあい

◀グループに別れ、ねりあいが行われた

鼓笛ＯＢバンドの演奏と共▲▶に会食スタート。続いて女子青年の余興が催された。

会食

◀くじ引きでは豪華商品が振る舞われた

▲▶Mr.children・桜井和寿さんのモノマネで登場した中谷悠治さん(南阿太分教会)が数々の名曲を熱唱し、会場を盛り上げた

▲9月1日に御成婚された青年会長様に向けて、青年会本部・池委員がサプライズでオリジナルのお祝いの歌を披露された

心の向きを変えれば、人生はもっと、わくわくする

「後継者講習会」続々と受講

あなたの受講をお待ちしています

20歳から40歳までの〝道の後継者〟が親里ぢばに集い、共に研鑽する「後継者講習会」が8月末より始まりました。岡大教会からも続々と対象者がおぢばへ帰り、第8次が終了した現時点で35人（男子19人、女子16人）が受講（10月23日現在）。「講習会」を終えた受講生の表情は生き生きとし、岡詰所で開催される最終日の会食では、「神様と向き合う時間を持とうと思えました。」、「新たな気付きも多くあり、本当に参加してよかったと思います」といった心勇んだ感想が聞かれました。道の将来を担う人材の育成が強く望まれる今、特に若者の丹精は重要な課題です。まだ受講申し込みをされていない方がおられましたら、ぜひともお申し込みください。心の向きを変えれば、人生はもっとわくわくします。あなたの力が、この先のお道には必要不可欠なのです。

私にできる「にをいがけ」

光武俊祐（26歳・須光分教会）

班員のほとんどが仕事をされている方で、聞かせていただく話に共感できるところが多く、新しい発見もありました。また、仕事をしながらでもお道の御教えを広めることが出来る、つまり〝にをいがけ〟ができることを学びました。

これからは、周りの人に「天理教の人ってすごいな」と思ってもらえるように、まずは自らが楽しく陽気に過ごせるように努めたいと思います。

お道に対する理解を深める

松葉千尋（21歳・道弘分教会）

幼少の頃から信仰家庭で育ち、教祖のお言葉や『おふでさき』などについては知っていました。しかし、意味を深く考えたことは無く、ただ聞いたり、読んだりしている程度でした。

今回「講習会」を受講し、その意味や御教えを実践するための心構え、具体的な行動について学ぶことができ、お道に対する理解が深まりました。私自身の現在の環境に感謝し、恩返しをしていけるように努めたいと思います。

▲男子宿舎での受付風景。期間中の世話取りは手厚く、「講習会」のプログラムに集中することができる。

信仰する理由を見つけた

蔵田恒志郎（33歳・忍海分教会）

今回、初めて「後継者講習会」を受講して、「天理教を信仰する理由が分かった」というのが率

直な感想です。そして私自身、心から天理教を信仰する気持ちになりました。

「講習会」では、「親孝行・夫婦仲良く」と「陽気ぐらしの実践」について学びましたが、私自身にできる「陽気ぐらしの実践」は、「喜びを見つけること」と「たんのうすること」だと思います。

自らを変えるチャンス！

丸田加代子（35歳・西大阪分教会）

いま、私自身が抱えているさまざまな問題と、「講習会」の内容がピタリと合っていたので、親神様・教祖から「心を入れ替えなさい」と言われているような気がしました。クラスもグループもとても楽しい雰囲気で、心勇んで参加させていただきました。

日々の生活の中で喜べない事があったりすると、「相手が悪い」と考えてしまうことがあります。相手ではなく、自分自身に矢印を向けた考え方を求め、その時の自分自身の心遣いを見つめ直し、自らを変えていけたらと思います。

▼不安と期待を胸に集った〝道の後継者〟たち。３日間の「講習会」を受講した彼らの表情はより素晴らしくなる。（写真は第１次受講者）

この道をもっと学びたい

小南卓也（25歳・鶴城分教会）

お道についてまだ多くを知らない私にとって、少し難しい言葉が飛び交う場面がありました。しかし、事情や身上に対する考えを、信仰を通して深める姿勢を学ばせていただき、「この道をもっと知りたい」という気持ちが芽生えました。

最近の私自身は、完全に自分中心の考え方をしてしまっていましたので、まずは「人の喜ぶこと」を考えて行動したいと思います。人をたすける気持ちと行動は、結局は自分がたすけていただけること。そのことを意識しながら、生活していきたいと思います。

心づかいを見つめ直す

篠北裕子（28歳・南渕分教会）

「後継者講習会」への参加を所属の会長さんから勧められたとき、「私は教会の後継者でもないのに……」と感じました。しかし、それは大きな勘違い。「後継者」とは、「この道を担う後継者」ということだったのです。

「講習会」では、さまざまなお話をきかせていただきました。今まで学んできたこともありましたが、改めて、自らの日頃の身の振り方、ようぼくとしての心づかいを見つめ直し、必要なことは変える努力をしなければと思えました。

日々の生活の中で、感じることは色々あります。しかし、私自身にできる「陽気ぐらしの実践」に向けて、これまでに頂いてきたご守護を忘れず、そして日々頂戴するご守護に感謝する気持ちを大切にしていきたいと思います。

第25回南相馬生活復興支援ひのきしん隊報告

仮設住宅の終了プロセスを見守って

▲伝統行事「相馬野馬追」の踊りを披露してくださった、仮設住宅のご婦人たち。

▼芋の子汁とおにぎり、ぜんざいをふるまった夕食の様子。開始と同時に、集会場がにぎわった。

これまでに無かった出来事として、二つ紹介したい。一つ目は、今も仮設住宅に残っている婦人さん達が、伝統行事相馬野馬追の踊りを披露して下さったこと。老人会の大会に出るので練習しているという。その踊る姿に、震災から6年という年月を乗り越えてきた福島の女性達の粘り強さを感じ、みんなで大きな拍手を送った。もう一つは、牛越・大鹿と現在もまとまった人数が暮らす仮設住宅を対象に10月4日昼食（ホットドッグ・スープ・柿）、そして夕食（芋の子汁・おにぎり・ぜんざい）を振る舞ったが、住人が10数名に減った小池小草・小池第三・牛河内第二へも、夕食の配達を行った。

その中の小池小草では、遅れたおにぎりを待つ間に、「何か話して下さい」との要望に応えて、常道登美雄氏が「かしもの・かりもの」の教えを話させて頂いた。仮設住宅の支援に当たっては、行政から布教活動は固く禁じられていた。しかし、回を重ねる毎に親しくなり、個人同士の交流の中におさづけを取り次ぐケースも結構あった。そして今回の事例は25回に及ぶ活動の足跡を感じさせられる。

夕食を配る内に夜の闇に包まれた。人気の消えた仮設長屋にポツンと点（とも）る一軒を訪ねると、年老いた母親の面倒を見ながら暮らす中年の女性が「一人分だけで結構です。有り難うござい

ます。」と少しの笑みを浮かべて丁寧にお礼を言われた。現在、終了プロセスに向かう仮設住宅には訪れる人もめっきり少なくなった。そんな中、震災当初から変わらず支援に訪れる、岡を含むお道の者達の活動は、現地被災者達の心を支え続けている。

参加者並びにご支援下さいました皆様方に心よりお礼申し上げます。次回の出動は、11月28日～30日の予定です。

▲今回の参加者は、おぢば発17名、埼玉発2名、新潟発1名、秋田発4名の合計24名。

継続的実動を目指して
私たちの真心を届けたい
熊本地震復興支援ひのきしん隊

今回で5回目の実動となった「〝JOYOUS LIFE岡〟熊本地震復興支援活動。「継続的な活動を目指したい」との思いのもと、毎月1度のペースで実動しています。

主な活動地は、熊本県上益城郡益城町の仮設団地。第4回の9月15日には14名、第5回目の10月12日は7名で、「小池島田仮設団地」で実動させていただきました。実動内容は、仮設住宅内と周辺の清掃や、農家のお手伝いなど。回を重ねる中で、宮永和典自治会長さんは、「天理教の方は本当に熱心に活動してくださり、とても感謝しています」と話してくださいます。

熊本地震発生から1年半が経過し、倒壊した家屋の撤去は8割近く進みました。現地を車で走ると、地震発生直後の状況を忘れてそうになるほどのスピードで整備が進められています。

しかし一方で、住む家を失い「仮設住宅」や「みなし仮設」と言われる暫定的に用意された住居での生活を余儀なくされている方が、現在でも4万人以上おられます。どうか、皆さんのご理解とご協力を頂き、一人でも多く、1回でも多く、私たちの真心をお届けさせていただきたいと思います。

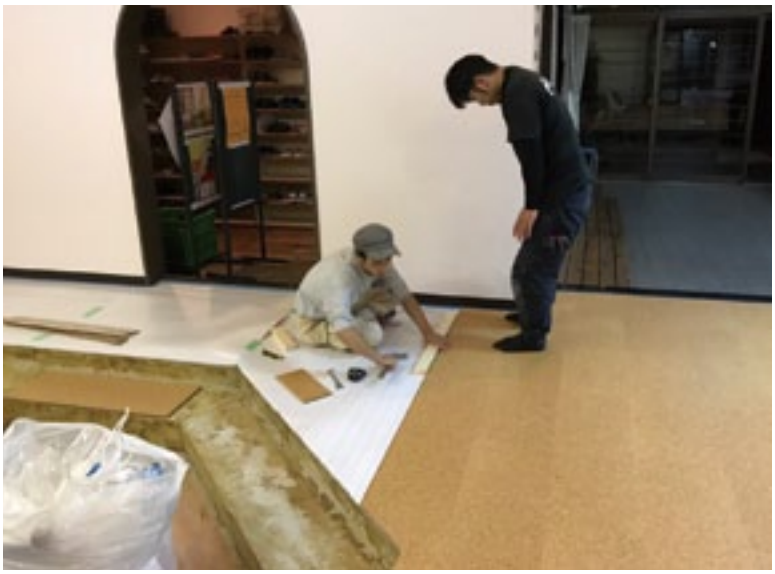
（文／早田茂・東鹿島分教会長）

▶益城町内の「仮設団地」での清掃作業と、米農家でのお米の袋詰めひのきしんの様子。

FOCUS

明るい雰囲気となった玄関ロビー

今月のベストショット



昭和５９年９月２４日に竣工した岡詰所の本館。年月を重ねるごとに傷みや故障個所が見られ、そのつど修繕が行われてきた。今回は、長年の使用でシミや汚れ、傷、色あせなどが目立つ絨毯（じゅうたん）を交換。特に劣化が激しかった玄関ロビーからエレベーター前にかけて敷き直された。

作業は、まず交換する絨毯をすべてめくり取り、床面をきれいに掃除。今回はコルク素材の「コルクフローリング」が使用されたため、ずれや歪みが出ないように、一枚ずつ慎重に敷き詰めていった。

今回使用された「コルクフローリング」は天然コルク材が使用され、保温性に優れている。表面はウレタン加工で掃除がしやすく、高い弾力性で足腰への負担を軽減する効果もあるという。

婦人会「伏せ込みひのきしん」

R180年8月22～23日

担当係より

未来を担う子供たちの熱気に圧倒されつつも、楽しく、明るく、元気いっぱいでひのきしんさせていただきました。

担当係／森川　誠子（西　北）

参加者／西村悦子（紫王路）、小川一江（黒埼町）、寺尾菊代（東明実）、角てる子（鳴　瀬）
津田美智子（枚　方）、藏田芙美（忍　海）、常道京子（岡　瀧）　　順不同

１０月「おぢば伏せ込み団参」

今月のおぢば伏せ込み団参は、西広場（旧足達邸）で除草ひのきしんをさせていただきました。遠近を問わず７３人の参加を頂き、勇んでつとめさせていただきました。

学生、本部勤務の皆さんもふるってご参加ください！

婦人会「伏せ込みひのきしん」

R180年9月22～23日

担当係より

秋風が心地よいこの日、青年会「決起総会」を目前に控え、喜びいっぱいの心を込めて、勇んでつとめさせて頂きました。

担当係／出口　美樹（飛鳥川）
参加者／蓮池恵理子（表　野）、龍やす代（牛　津）、市丸順子（肥　城）、古賀喜子（貞　元）
古賀みすず（肥前三日月）、石丸あや子（壽　豊）、緒方順子（鶴　城）　　順不同

3日　西北おつとめまなび総会
3～5日　第9次後継者講習会
4～5日　鼓笛隊練習日
4日　岡心勇隊佐賀地区
5日　おぢば伏せ込み団参（午前中）
8日　岡心勇隊奈良中和地区
9日　岡心勇隊五條橋本（あやの台）
10～12日　第10次後継者講習会
12日　西大阪会長就任奉告祭
13日　婦人会委員会　岡心勇隊八幡地区
14日　二代真柱様五十年祭
15日　大教会ひのきしん（道弘）
18日　岡心勇隊大阪地区
19日　関東おつとめ日
20～22日　第12次後継者講習会
21日　大教会ひのきしん（相嘉）
22日　役員会議　大教会史編纂作業部会
　　祭典準備ひのきしん
　　大教会ひのきしん
　　（表野・飛鳥川・岡萩）
22～23日　婦人会伏せ込みひのきしん
23日　大教会月次祭
　　役員・直属教会長連絡会議
23～26日　婦人会詰所ひのきしん
24日　大教会ひのきしん（東松浦・西北）
25日　詰所運営委員会　青年会委員会
26日　本部月次祭　祭典後お礼づとめ
　　学生担当委員会
27～28日　新任教会長の集い
28～30日　第26回南相馬ひのきしん隊
29日　岡心勇隊福岡地区
30日　岡心勇隊姪浜会場

◆本部境内掛ひのきしん（10月1日～1年間）
　東志免　高場淳平
◆本部食堂ひのきしん（10月1～15日）
　西九州　星野秀和
◆教会長任命講習会受講者
　（9月10日～9月14日）
　西大阪　丸田真久
◆教養掛
　10月　筑八　井上明生
　11月　芦刈　山内健二
◆第74回教会長資格検定講習会修了者
　（8月27日～9月19日）
　北有明　片渕　さとみ
　教会長資格検定合格者（9月20日）
　北有明　片渕　さとみ

◆第52回教人資格講習会後期修了者
　（9月6日～9月10日）
　西肥　和田潤子
◆修養科第914期修了者（7月27日付）
　岡村　奥村あきえ
◆第75回教人資格講習会前・中・後期修了者
　（9月27日～10月11日）
　南阿太　芝田礼
◆別席願
　（9月16日～10月15日詰所受付分）
　道弘　中垣内俊一郎
◆おさづけの理拝戴願
　（8月16日～10月15日詰所受付分）
　表野　蓮池理栄
　西北　森川実咲
　南渕　井上友博
　岡道　小谷絢音
　東松浦大阪中畔慶人
　眞世　森井大一
◆事情お運び（9月26日）
・任命願　西大阪分教会（西北）
　新会長　丸田真久
　所在地　奈良市学園大和町5－149
　奉告祭　立教180年11月12日